

ティーチング・ステートメント

所属 全学共通教育部

名前 坂部 俊行

作成日 2023年3月30日

【責任】

私は全学共通教育部に所属をし、英語及び多文化理解を中心とした教育・研究活動を行っている。教育活動としては、授業では英語に関する科目(英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ、インターナショナルパスポートⅠ、インターナショナルパスポートⅡ)を担当している。授業以外では、学生に関わることで硬式テニス部顧問、English Lunch・English Campのサポート、教職員に関わることでEnglish Circleの講師を務めている。また、教育以外の学内業務では、国際交流委員長を仰せつかっている。

【理念】

学生には国際共通語としての英語を、将来の仕事の手段として操れる、加えて多文化の理解・許容を実現できる人材になって欲しい。グローバル化が急速に進みそして確立され、グローバル化は当たり前になり、グローバル化という言葉は特別ではなくなっている。そのような状況の中で、人、物、そして情報はより早くそしてより広範囲に移動できる社会へと変わってきている。そのため、将来の拠点が日本国内または海外に関わらず、英語でのコミュニケーション能力を習得しておくことにより、仕事や業務の選択肢は広がる、もしくは広がる可能性がある。コミュニケーションにおいては英語も日本語も関係なく、在学中に対人関係の重要性やその構築を理解して学ぶことにより、卒業後は社会にスムーズに入っていけると考えている。

専門分野の研究では、日本語の文献や研究だけでは限度があり、より先へと進みたい場合は英語での論文参照や外国人研究者や教育者との協働が必要となる。英語能力習得、多文化を理解そして許容していることにより、論文の理解度、協働の容易さが可能となる。

英語学習に関しては、現在はビックデータにより様々なアプリなどで翻訳等が可能となってきた。それらを的確に効果的に使用できるように指導していきたい。

学生だけではなく、教職員にもグローバル化を意識してもらうことを目指し、大学全体に浸透させる努力をする。

【方針・方法】

上記の理念を実現させるために、学生の「学習の習慣化」「知識の定着」「技術の活用」「他者理解」「外への興味」を方針として教育をしている。また、それらを学内に浸透させるために、教職員への英語教育・多文化理解の場も設けている。

「学習の習慣化」

・学生には自宅学習として毎週 elearning 教材に取り組ませる。

・学生には次回の教科書の部分に事前に目を通させ、わからない語彙等がある場合は調べておくように指示している。

「知識の定着化」

- ・上記 elearning 課題の小テストを毎週実施している。
- ・授業を行うにあたり、授業内容のスライドを事前に作成して視覚的資料として提示する。
- ・授業では教科書だけの内容に留まらず、それに付随する学生が興味を示しそうな情報を事前に調べて紹介し、学生の記憶に残るようにする。

「技術の活用」

- ・ビックデータ時代において、精度が向上している自動翻訳技術を活用することで、ベースとなる英訳・日本語訳を基にして作業を進める方法を指導する。

「他者理解」

- ・オフィスアワーを設け、学生が自由に研究室を出入りできるようにする。
- ・授業中は教室内を歩き回り学生に話しかける。学生のことを知ると同時に、自分のことを知ってもらい信頼関係を構築する。
- ・授業中にはペアワークやグループ活動を取り入れ、英語でコミュニケーションとる機会をなるべく多く設ける。活動は、学生の所属学科に関連した内容にする。
- ・部活動の練習や試合に顔を出す。

「外への興味」

- ・学生が興味を持ちそうな、または将来役に立ちそうな海外に関する情報、自分が海外に出張または旅行をした時に収集してきた情報や撮影してきた写真・動画を授業で紹介し、外の世界に目を向けるきっかけ作りをする。
- ・学生の異なるニーズに合わせた海外研修プログラムの計画・実施をして、学生の外への興味を刺激する。

【評価・成果】

- ・授業評価アンケート結果
- ・学生の英語力向上度測定(学期始めと終わりに評価試験を実施)
- ・留学に興味を示す学生の増加
- ・海外留学・研修プログラムの構築。外国人留学生・インターンシップ受け入れプログラムの構築。
- ・外国人留学生と日本人学生の交流、国際的な視野を持てるようなイベントの企画・運営などをする BRIDGE 同好会の設立

【目標】

- ・本学学生に合った海外研修を企画・実施する。
- ・授業改善アンケートにおいて学生の満足度を上げる。

- ・各学期ごとに事前・事後で評価試験を行い学生の英語力向上度を可視化し、次の段階の英語学習への動機付けを行う。
- ・海外留学をする学生を増やす。
- ・英語に関する検定試験の受験者数を増やす。
- ・オフィスアワーで来室する学生を増やす。
- ・卒業生が研究室に遊びに来る。